



# みちくさ

2016. 6. 16 No. 25

## 修学旅行が終わって

6年生の一大イベントとも言える修学旅行が、先週無事に終了いたしました。今年も会津若松市への旅行となりました。予定の組み方としては、木曜日から1泊2日というのが圧倒的に多いと思います。疲れがとれるよう、帰宅後は週休日になる組み方にするのでしょうか。しかし、学校が集中してしまうため、



行く先々で仙台市内の学校と鉢合わせになるということも珍しくありません。特にお土産を買う場所で複数の学校が入ってしまうと、もう大変なことになってしまいます。

その点、本校では火曜日から1泊の行程だったので、比較的空いていました。初日、午前中に飯盛山へ向かい、はじめにお土産を買うというスケジュールだったので、どこの学校も来ていないところで、悠々と買い物をすることができたようでした。

ところで、子どもたちに許されたのは、お小遣いとして7千円以内という条件でした。初日の昼食代も含めて、お土産にそのお小遣いを費やすことが認められたのです。考えてみると、子どもたちだけで知らない町を歩き、好きな場所で食事をし、自分で考えてお土産を買うという体験ははじめてかも知れません。最初の場所で昼食代を除いてほとんど使い果たしてしまう子がいました。もちろん、計画的に買い物をし、二日目の昼食場所でもお土産を買った子どももいました。7000円を遣うことは今までであったでしょうが、親の居ないところで、自分で計画をしてお金を遣うという体験も貴重なものです。お財布をどこにしまっておくかでも、子どもそれぞれだったようです。

帰校した翌日に解団式があり、その場で「自由と責任」という話をさせていただきました。これから大人になっていくにつれ、今回のようにたくさん自由が増えていくことになります。一方で比例するように、責任も増してくるという話をしました。

## 朝の横断歩道で

出張のある日以外は、毎朝横断歩道に30分ばかり立って、子どもたちを迎えています。授業を持っていないので、朝のほんの一時が子どもたちとふれ合える時間かと思っています。担任は毎日子どもたちと接していますから、おそらく日々の子どもの変化をよくとらえているでしょう。担任には及ばないかもしれませんが、朝だけのふれ合いでも、「今日は少し来るのが遅いな」「なんか泣きそうな顔しているな」など、様々感じることも多いのです。出がけにお母さんに叱られることでもあったのか。寝坊して急いで来たのだろうか。はたまた、友だちとけんかでもしたのだろうか。

毎日いろいろな変化に富む子どもたちの生活です。朝は余裕をもって早く送り出していただきたいと思います。8時20分頃、ぎりぎりで駆けつけてくる子どもも決まっているようです。「慌てて事故になどあわなければいいな」と心配になってしまいます。

## 「秋の気配」

これから夏なのに？と思うようなタイトルですが、これは歌のタイトルです。70年代から80年代に活躍したオフコースの初期の名曲の一つです。ふっと疲れたときに思い出し、しばらくぶりで聴いてみたら、もう30年も昔の曲なのですが、改めていい歌だなと思いました。クラシックギターのイントロから始まり、高音で澄んだ歌声が切なくなります。



この曲の作曲者でオフコースのメンバーだった小田和正さんは、東北大で学生時代を過ごされていましてから、もしかしたら当時片平周辺も歩いていたのかも知れませんね。歌の中に出てくる公園は、残念ながら仙台ではなく横浜にある「港が見える丘公園」だということです。横浜に遊びに行ったついでに、この公園も訪ねてみたことがありました。

オフコースについては、初期の頃のまだ余り売れてなかった時代の歌が好きです。高校生の時、二歳年下の従姉妹の家に置いてあったレコードに、何気なく針を落として以来のファンでした。

ところで、この歌詞なのですが、よく吟味して聴いてみると、恋愛でも失恋の歌でもなく、男性が女性を呼び出し、何とか別れようと切り出している歌なのです。歌詞だけを見ると、こんな酷い男の話か？とってしまいます。それがきれいなメロディーに乗せてしまうと、何故か切なく聴こえてしまうから不思議ですね。

誰でもいろいろな節目で聴いていた素  
そういう曲を聴く度に、昔の懐かしい思い  
すね。私にとっては、オフコースもその一



敵な曲をおもちかと思えます。  
出までもが蘇ってくるよう  
つです。